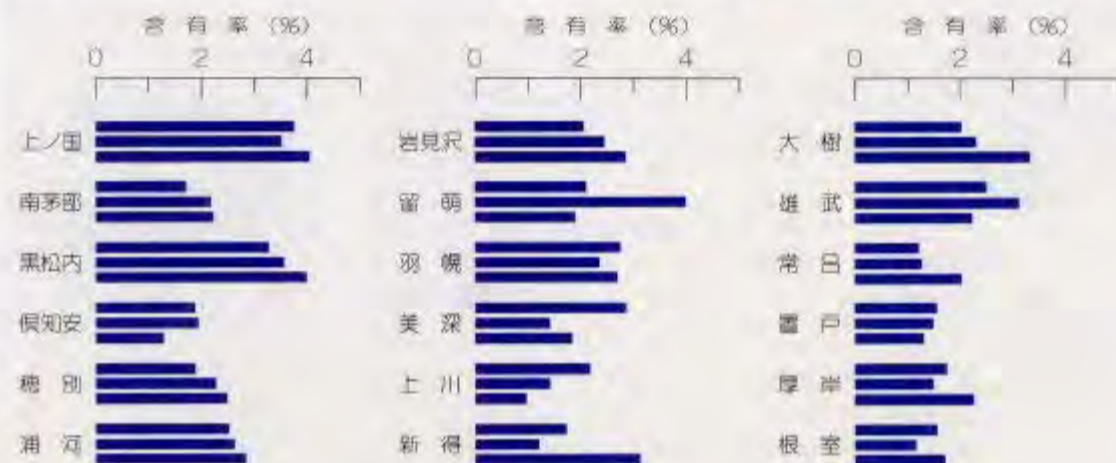


薬用樹としての キハダの利用

キハダの内皮は有効成分としてベルベリンを含み、古くから苦味健胃整腸剤として利用されています。これを乾燥させたものは、生薬名を黄柏(おうばく)といい、わが国で年間約400トン消費され、このうち約250トンが輸入されています。

林業試験場では、道立衛生研究所と共同で北海道産キハダについて、個体、採取時期、採取部位による薬効成分の違いや育成方法を検討しました。その結果、採取した136個体の97%はベルベリンの含有率が日本薬局方の基準である1%を超え、中には、5%も含む個体が見つかりました。なお、産地によって含有率に差がある、地際部は特に高いが他の樹幹部分ではほぼ一定である、樹冠が大きく成長の旺盛な個体は内皮が厚く、含有率も高いなどがわかりました。

キハダの成長には肥沃な土壌と十分な日光が特に必要です。



産地別・個体別のベルベリン含量